

表 1 大阪漆工関係者一覧

①漆工（髹漆・蒔絵ほか）一覧

人名	職種	生没年	事歴	典拠(ほか)
春井清三郎	蒔絵	1839-1884	天保14年(1843) 兼種商四代目清三郎の長男として大阪に生れる。幼名を辨造。蒔絵師小谷孫兵衛の門に入り、修業後師と共に長崎へ赴き、4年後大阪に帰り五代目清三郎を襲名する。象牙彫刻家、唐木細工師、塗師、木地師等を招聘して内外人の嗜好に適する品を考案製作し販路を内外に広め、工場を新設する。	A J
安原 清 (機芳)	蒔絵	1844-1899	明治17年(1884) 4月病歿。享年42歳。 天保15年(1844) 金沢市に生れ機芳と号す。画を森春岳に学び、蒔絵を五十嵐興右衛門に習ふ。 明治16年(1883) 神戸の貿易商池田清助に招聘され輸出工芸美術品の製作に従事。 明治18年(1885) 大阪に移住し機芳東ノ町に転居、池田及び小国長兵衛氏などの委嘱により制作。 明治23年(1890) 三回内国勲業博覧会出品、妙技二等賞を受ける。 明治26年(1893) 日本美術協会大阪支会の設立に尽力する。 明治27年(1894) 大阪五二会(漆器新議員)。 明治31年(1898) 全国漆器漆生産産府県連合共進会の審査員。(ほか関西府県連合共進会審査員歴任。 明治32年(1899) 3月、57歳で病歿。長男重次が夭折のため、次男祥窓が家業を継ぐ。	A B ※大阪の時期が両者で異なる。
中川忠兵衛 (芝泉)	蒔絵	1846-1897	弘化3年(1846) 5月京都に生れる。17歳より鈴木玉船に蒔絵を、20歳で大阪に移り蒔絵に専念す。 明治21年(1888) 芝川、住友共同の日本蒔絵合資会社設立に際し教授兼工場長となる。 明治30年(1897) 52歳で没。門下に高橋芝豊氏、大津定次郎、橋芝青、山内芝仙がいる。	A B
浅野惣三郎 (可秀)	蒔絵	1856-1932	安政3年(1856) 8月加賀に生れる。鶴来又右衛門、高田茂三郎に師事し、可秀と号す。 明治23年(1890) 石川県立工業学校設立時に美術工芸部描金科助教となるが、数年後退職し自宮。 明治26年(1893) シカゴ万国博覧会に蒔絵出品(東京国立博物館蔵) 明治33年(1900) パリ万国博覧会に蒔絵出品 明治35年(1902) 田中合名会社の委嘱に依り大阪に移住。内外各地博覧会に出品し賞を得る。 昭和7年(1932) 4月、77歳で歿す。	A B
川端佐七 (二代)	蒔絵	1854-1912	安政1年(1854) 京都に生れる。川端佐兵衛の三男。幼名廉吉と云ひ、蟻洞と称し後に左近と号す。 家業である髹漆蒔絵及古器物修繕を行う。 明治36年(1903) 第五回内国勲業博覧会に蒔絵出品 明治45年(1912) 5月59歳で歿す。	A B ※後者には江戸期に春海商店とともに大阪に移るとある
吉田一閑 (三代)	髹漆	1851-1914	嘉永4年(1851) 京都に生れる。久兵衛。通称は京久。道修町五丁目淀屋橋筋南入西側に移転。利休一閑師の看板を掲げる。 大正3年(1914) 8月、64歳で歿す。	A B
今村洋渡 (初代)	髹漆	1848-1922	嘉永1年(1848) 兵庫県川辺郡神崎村の医師の家に生まれる。清吉といった。京都漆匠長貫(寛) 師の門に入る。 明治8年(1875) 先代今村平助の養嗣子となる。 明治22年(1889) 9月より上海、香港、シンガポール、ペルシヤ、スラバヤ、シドニー、メルボルン歴遊。 明治24年(1891) 帰朝し技を磨く。 明治43年(1910) 日英大博覧会、大阪市の商品物に関わる。 大正1年(1912) 天皇御大葬御輦車の髹漆を担当する。 大正11年(1922) 生家にて歿。	A B ※漆匠長貫師が不明。佐野長寛(1794～1856)は安政三年(1856)3月2日没。
川合漆仙 (初代)	髹漆	1868-1928	明治1年(1868) 大阪市北区に生れる。名は信太郎。初代川端近左に就き10余年髹漆蒔絵を修業する。男爵藤田伝三郎の知遇を得る。大阪市美術協会、大阪府工芸協会の設立に寄与した。晩年茶道の趣味深く、俳句を桃空三世に学ぶ。 昭和3年(1928) 2月歿す。享年61歳。	A B
藤沢彦兵衛			明治6年(1873) ウェイマング国博覧会に雅黒作品を出品。	D
田中達三郎			明治14年(1881) 第二回内国勲業博覧会に髹甲、象牙蒔絵小品出品。	E
東門五兵衛	漆器商		明治19年(1886) 府県漆器沿革漆工伝統誌「に東区安土町四丁目の東門五兵衛が寛永年間に漆器商店を開いたこと。この店が明治維新以前には諸藩が用いる漆器を供給していたことが記される。 明治14年(1881) 第二回内国勲業博覧会。 明治36年(1903) 第五回内国勲業博覧会に蒔絵出品。	E
加藤武左衛門			明治23年(1890) 第三回内国勲業博覧会に漆器髹立を出品	E

※以下は漆工と漆器商の区別つかないものも含む

豊田英輝	蒔絵	1884-	明治23年(1890) 第三回内国勲業博覧会に薦田英三郎(英輝) 名義で蒔絵を出品。 明治36年(1903) 第五回内国勲業博覧会に薦田英三郎号英輝名義で蒔絵を出品。	E ※日本美術協会大阪支会 設立名簿にあり
岡治平			明治26年(1993) シカゴコロンプス博覧会に蒔絵手箒筒を出品。	D
山中吉郎兵衛	美術商		明治26年(1993) シカゴコロンプス博覧会に髹漆屏風を出品。	D
藤原伊兵衛			明治26年(1993) シカゴコロンプス博覧会に蒔絵書棚を出品。 明治36年(1903) 第五回内国勲業博覧会に藤原伊兵衛号春芳堂名義で蒔絵出品。	DE
田中定次郎			明治33年(1900) ハリ万国博覧会に出品。	D
榎竹文次郎			明治36年(1903) 第五回内国勲業博覧会に推挙出品。	E
今西清三郎			明治36年(1903) 第五回内国勲業博覧会に推挙出品。	E
尾関源太郎			明治36年(1903) 第五回内国勲業博覧会に蒔絵出品。	E
松林定七	蒔絵		明治37年(1904) セントルイス万国博覧会に漆器出品。	D
徳岡作兵衛			大正2年(1913) 第一回農商務省图案及应用作品展覧会に出品。	F
奥城紫明	蒔絵		大正5年(1916) 第四回農商務省图案及应用作品展覧会に出品。 大正7年(1918) 第六回農商務省图案及应用作品展覧会に出品。 大正9年(1919) 第八回農商務省图案及应用作品展覧会に出品。	F
吉川義信	蒔絵		大正8年(1919) 第七回農商務省图案及应用作品展覧会に出品。	F
川合好太郎	髹漆		大正8年(1919) 第七回農商務省图案及应用作品展覧会に出品。	F
遊部秋園	蒔絵		大正7年(1918) 第六回農商務省图案及应用作品展覧会に出品。 大正7年(1919) 第七回農商務省图案及应用作品展覧会に出品。 大正12年(1923) 第十一回農商務省图案及应用作品展覧会に出品。	F
安原祥窓	蒔絵	1884-	安原清の次男。 大正5年(1916) 第四回農商務省图案及应用作品展覧会に出品。 大正10年(1921) 第九回農商務省图案及应用作品展覧会に出品。 大正11年(1922) 第八回農商務省图案及应用作品展覧会に出品。 昭和2年(1927) 第八回帝国美術展覧会に出品。 昭和6年(1931) 第十二回帝国美術展覧会に出品。 昭和7年(1932) 第十三回帝国美術展覧会に出品。 昭和8年(1933) 第十四回帝国美術展覧会に出品。 昭和9年(1934) 第十五回帝国美術展覧会に出品。 昭和14年(1939) 工芸美術輸出報国会結成に加わる。	F G K
越田尾山	蒔絵	1874-	明治7年(1874) 金沢に生まれる。大阪で独立して蒔絵を業とする。 昭和4年(1929) 昭和四年(一九二九) 第十回帝国美術展覧会に出品。 昭和5年(1930) 第十一回帝国美術展覧会に出品。 昭和6年(1931) 第十二回帝国美術展覧会に出品。 昭和7年(1932) 第十三回帝国美術展覧会に出品。 昭和8年(1933) 第十四回帝国美術展覧会に出品。 昭和9年(1934) 第十五回帝国美術展覧会に出品。 昭和11年(1936) 文展に出品。 昭和12年(1937) 文展に出品。 昭和16年(1941) 文展に出品。 昭和15年(1940) 紀元2600年奉祝展出品。	G
神戸雪汀	蒔絵	1875-1971	明治8年(1875) 金沢で生まれる。加賀蒔絵を修業。 明治30年(1897) 23歳の時大阪に移る。 後に畿内館庵(1868-1940)の知遇を得て吹田の西尾家の家礼となる。	

島野三秋	蒔絵	1877-1970	明治10年(1877) 7月金沢市に生まれる。本名は新太郎。県立工業学校漆工科で漆を鶴田和二郎、蒔絵を松岡吉平、日本画を岸柳溪に学ぶ。 明治37年(1904) 27歳の時大阪へ移住。 大正2年(1913) 第一回農商務省图案及応用作品展覧会に出品。 大正3年(1914) 第二回農商務省图案及応用作品展覧会に出品。 昭和5年(1930) 第十一回帝国美術院展に出品。 昭和6年(1931) 第十二回帝国美術院展に出品。 昭和7年(1932) 第十三回帝国美術院展に出品。 昭和8年(1933) 第十四回帝国美術院展に出品。 昭和9年(1934) 第十五回帝国美術院展に出品。 昭和11年(1936) 以後毎年文展に出品。 昭和16年(1941) 文展審査員となる。 昭和35年(1960) 日展出品委託となる。 昭和40年(1970) 88歳で没。	GK
山内芝仙	蒔絵		有限責任浪華蒔絵所(後日本蒔絵合資会社と改称)における中川芝泉門下。 大正12年(1923) 第11回農商務省图案及応用作品展覧会に出品。	CF
高橋芝豊	蒔絵		有限責任浪華蒔絵所(後日本蒔絵合資会社と改称)における中川芝泉門下。	C
橘芝青	蒔絵		有限責任浪華蒔絵所(後日本蒔絵合資会社と改称)における中川芝泉門下。	C
大津定次郎	蒔絵		大正7年(1918) 第6回農商務省图案及応用作品展覧会に祥斎名義で出品。	C

②実業家・商人一覧

芝川又平 (又右衛門・百々)	漆工振興	1823-1912	文政6年(1823) 京都に生れ、近藤有芳について岸派の絵を学ぶ・父中川重次郎について蒔絵を学ぶ 天保11年(1841) 二条御幸町で独立。後、銅板による柴付の制作販売に転ずる。 嘉永4年(1851) 大阪の芝川家に婿養子として入る。 明治19年(1886) 第3回関西連合府県衛生茶葉麻綿紙織物陶漆器繻共進会(京都)に芝川又右衛門名義で蒔絵を出品 明治23年(1890) 住友左衛門と共同で有限責任浪華蒔絵所を設立。後日本蒔絵合資会社と改名。 明治23年(1890) 第三回内国勲業博覧会に芝川又右衛門名義で出品。 明治26年(1893) シカゴエクスポジション博覧会に日本蒔絵合資会社名義で出品。 明治28年(1895) 第四回内国勲業博覧会に芝川又平 蒔絵合資会社社長名義で出品。 明治31年(1898) 日本蒔絵合資会社を解散し、個人経営とし芝川漆器合名会社を創立する。 明治33年(1900) 同社とは別に芝川紙製漆器工場を設立 明治33年(1900) パリ万国博覧会に芝川又右衛門(2代)名義で蒔絵出品。 明治36年(1903) 第5回内国勲業博覧会に蒔絵出品に芝川又右衛門(2代)名義で蒔絵出品。 明治36年(1903) 蒔絵事業を閉鎖し、紙製漆器工場が焼失 明治44年(1911) 紙製漆器工場が焼失 大正1年(1912) 12月没す。 大正5年(1916) 芝川漆器合名会社の解散	A
田中平三郎(先代)	漆器商	1865-1932	慶応1年(1865) 大阪に生る。輸出漆器の改良をめざす。三上博士を招き、紫漆の発明者今村洋渡を援護する。 明治30年(1897) 同業者間の競争相製濫造を防ぐ目的で大坂漆器商組合を組織。 明治31年(1898) 島佐兵衛等と共に市を動かして大阪市立图案調製所を設立させる。漆器銅器等に関する图案の調製指導。不幸にして経費の都合上二年にして閉所となるが、その後图案作成が広まる。 明治35年(1902) 浅野惣三郎を金沢から招聘 明治36年(1903) 第5回内国勲業博覧会に田中合名会社名義で蒔絵を出品 明治36年(1903) 第5回内国勲業博覧会に田中合名会社名義で蒔絵を出品 明治37年(1904) セントルイス万国博覧会に漆器出品 昭和7年(1932) 6月67歳を以て歿す。	A

A C H
※浪華蒔絵所では中川芝泉が教授となり、高橋芝豊、大津定次郎、橘芝青、山内芝仙が蒔絵師となった。

住友吉左衛門 (春翠)	漆工振興	1864-1926	元治1年(1864) 生る。家業を継ぎて各種事業に従事す。 明治23年(1890) 芝川又平と共同して有限責任浪華時絵所を創立し漆器並時絵工業の爲め貢献。 大正 年() 大阪市立美術館創設の爲めに進んで其の敷地を寄附する 大正15年(1926) 三月病歿す。同年勲一等に叙せられ、瑞宝章を授けらる。	A
池田清助	輸出商	1839-	天保10年(1839) 紀伊国(和歌山)伊都郡岡田村に生まれる。はじめ池田清右衛門という。神戸で越後屋と称し外船乗組員らに雑貨を販売。 明治7年(1874) 神戸の居留地に店舗を出す。 明治9年(1876) 英国に店員を派遣するが失敗。さらに神戸で和歌山藩御庭焼の交趾焼をはじめるか損失を被る。縫箔屏風、象嵌細工、七宝、粟田焼、九谷焼、漆器、彫刻など輸出品の制作に携わる。 明治14年(1881) 農商務省商務局長前田正名と出合い、政府より五万円の保護金を得、店員谷治作と長子清右衛門(二代目清助)夫妻を派遣し九越組ロンドン支店を開く。しかし翌年政府が保護金を回収、現地雇人の不正行為により数万円を損失し支店は閉鎖。 明治15年(1882) この頃、安原清を釜沢から招聘し時絵の制作を委嘱する。 明治19年(1886) 四月にロンドンに渡り支店整理し、英仏両国の商況を視察、それまで輸出された漆器が米国では気候の変化で剥落することを知り、木にかわって薄い鋼で素地を作り布着せしめて、漆を塗り時絵を施すことを考案した。 明治26年(1893) 緑綬褒賞を受ける。 明治27年(1894) 林新助とともに常盤ホテルの買収。 明治28年(1895) 京都に新古美術工藝を披う池田合名会社を設立した。 明治33年(1900) パリ万国博覧会に京都池田合名会社名義で出品 明治36年(1903) 第五回内国勲業博覧会に京都池田清助名義で出品 明治37年(1904) セントルイス万国博覧会に京都池田清助名義で時絵を出品 明治41年(1908) 京都美術倶楽部を設立して社長に就任。 明治43年(1910) セントルイス万国博覧会に池田清助名義で時絵を出品	H
小国長兵衛	漆器商	明治23年(1890) 明治36年(1903)	第三回内国勲業博覧会出品 第五回内国勲業博覧会に時絵出品	E

※典拠一覧

- A 『郷土名工並明長瘦助功勞者小伝追影者』
- B 『大阪中興漆器の思ひ出と当時の儀』
- C 『芝蘭遺芳』
- D 『明治万国博覧会美術品出品目録』
- E 『内国勲業博覧会美術品出品目録』
- F 『農商務省図案及応用作品展覧会当該年次の図録』
- G 『文展、帝国美術院展当該年次の目録』
- H 『明治京都における官製「美術」概念の受容—京都の博覧会と美術商・「美術館」をめぐる一—』山本真紗子『Core Ethics Vol.5』二〇〇九
- I 『東区史』4文化篇
- J 『ハリリコレクション』海を渡った日本の美
- K 『日本美術年鑑』